



「鳴之尾牧場」開設式・春の入牧 (有武町)

昔 昭和41年4月



今



昭和41年に市が開設した鳴之尾牧場。酪農家から預かった子牛を足腰の強い牛にするための施設で、春と秋に入牧が行われます。右の写真は、開設日当日に行われた入牧式の様子。今ではシンボルとなっている赤いトンガリ屋根の研修館は、景観を観光にも生かそうと昭和59年に建てられました。映画の舞台にもなった牧場です。



昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ!

カノヤタイムトラベル

大隅隼人の反乱

古代、大隅地方の隼人族は、永く大和朝廷と抗争を続けていました。しかし、次第に中央政権に支配されるようになります。

奈良時代の和銅六年(714年)、大和朝廷は日向の国から大隅を割いて分国し、国衙(国の役所)を国分に置き、初代大隅国司・陽候史麻呂を任命しました。養老四年(720年)、陽候史

麻呂は、肝属地方の年貢の納入成績の悪化を受け、鹿屋に入ります。居城を構えて統治していた丘は、国司山(国司城)と呼ばれていました。(現在の新栄町あたり) 国司には警護の衛士18騎と諸役36人が付いていたといわれますが、大隅隼人がこれを急襲。国司方はようやく包囲軍の一端を切り



国司城跡 (新栄町)

開き、大始良方面へ逃げましたが、追って来た隼人軍と現在の星塚町あたりで戦い、国司方は次々と倒れました。



国司塚 (永野田町)

国司は名貫川を越えて丘に駆け上がり、馬をつなぎ自殺を試みるも死にきれず、下の泉にすべり降りて水を飲み、そのまま息絶えたといわれます。そしてその場所が、永野田町の「国司塚」であると伝承されています。

以来、永野田町の永田家では、これを氏神として、約1,200年間祀り続け、旧暦十月中丑の日(なかつし)に例祭を行ってきました。

大隅隼人の反乱についての確たる資料・記録は残っていませんが、これらの史跡が、大隅隼人の反乱を今に伝えています。